

表 6

平成 年度

個別の指導計画 (学期)

対象児	年 組 (名前)
-----	------------

	実 態	課 題	具体的な支援	評価	
学 習 面	国語	簡単な文章の内容はほぼ理解できる。かな(カナ)は、ほぼ読めるが拗音や促音を書けない時がある。漢字は2年生程度までの漢字は読めるが、書ける漢字は少ない。	特殊音節や漢字の読み書きの力を付ける。	ひらがな及びカタカナの50音表などを使用し、文字をすばやく想起できるようにしておく。また、覚えにくい文字や音節を整理する。漢字指導は、部分に分けるなど形としてとらえる学習や視知覚トレーニングなどを行う。読み教材には振り仮名をふるなど読みに負担をかけないような配慮も必要である。	ひらがな、カタカナの基本的な音節(清音・濁音・半濁音)の読み書きが100%できる。
	算数	学年相当の計算ができる。一人では、文章題の題意が読みとれない時がある。定規の使い方が分からない。	文章題に取り組む。定規の扱い方に慣れる。	文章題は、簡単な表現に直し、具体物や図などを使って問題文の内容を理解できるようにする。目盛りの見やすいものさしを使用し、定規などの教具の使用練習を行う時間を確保する。	簡単な文章題を読んだりして、題意をつかもうとする気持ちをもつ。ものさしで2~3点間を線で結べる。
	社会	社会科の地図、図、グラフなどの内容を読みとることが難しい。	地図等を読み取る際、細かい所まで注意を集中する。	読み取るポイント、注意を向ける箇所を説明したり、マーカーで表したりする。	読み取らなければいけないポイントが分かり、グラフが読み取れる。
	(その他の教科について記入する)				
	図工	絵は苦手だが、人や物の絵を少しずつ描くようになってきた。のりやはさみの使い方は苦手。	苦手意識をもちながらも、好きな物の絵を描く。のりやはさみの使い方に慣れる。	色を塗る道具については、絵の具だけではなく、色鉛筆やマーカーを使用しても良い。のりは、スティックのりを使用する。細かい指示はあまりしない。	友だち、先生といっしょに楽しく描ける。のりしろを意識してのりを塗れる。
	板書を視写するのに時間がかかる。まとめたりとして写すことができないので、内容がわからない時がある。	速さよりもまず正確に視写する態度を身に付ける。	どこを写していいのかマグネットなどで印を付けたら、書き終わってから説明した内容を個別に伝えたりする。小黒板に連絡帳の枠を張り、それと同じ様式の連絡帳に視写させる。	連絡帳の内容を正しく書ける。	
行 動 面	対人関係	ちょっとしたことで、友だちをたたいたりつねったりして、よくトラブルをおこしてしまう。	休み時間に友だちと仲良く遊ぶ。	休み時間には、できるだけ本児とかわりを持ち、友だちの誘い方や遊び方など良い手本を見せる。少しでも良い行動がみられれば、みんなの前でほめる。友だちとけんかをしたり、トラブルを起こしたりしたら、叱る前に本人の思いを十分に聞き、どこが悪かったのかを考えさせる。	いっしょに遊びたい時などの言い方を知る。先生といっしょに順番を待てる。
	学級生活	給食：野菜類を全く食べようとせず、立ち歩くことがある。 掃除：友だちといっしょに掃除することが難しい。	野菜を少量でも食べようとする態度がみられる。給食中は、立ち歩かない。 分担された場所の仕事を最後までする。	盛りつける時に本人に食べる量を確認する。食べることができれば、学校や家庭でもほめる。好きなものをお代わりする時には、嫌いなものを食べ終わってからというルールや食事中、用事がない時は立ち歩かないというルールを学級全体で確認しておく。担当場所や自分の仕事を表などでいっしょに確認する。掃除の手順を絵カードなどで示す。	嫌いな物も食べようとする態度がみられる。立ち歩く回数は、3回までとする。 友だちや先生の言葉かけで仕事に移る。掃除の手順を理解する。